

●後藤治 | 相続税だけが問題ではない。都市計画法で宅地の緑を「公」に位置づけよ ●河合伸泰 | CADで正確性を担保しつつ利用状況に応じた区分評価が相続税の節税に有効 ●神奈川県「邸園文化圏再生構想」| 建物保全活用などが提案できるヘリテージマネージャー養成 ●菅孝能 | 歴史ある建物の保存に向けて、防火・構造・仕上げ材の特例を ●久恒利之 | 大正15年築の里見瑯邸を設計事務所と地域交流の拠点の場に ●伊郷吉信 | 所有者に残す意志があれば、建物保存は無限に広がる ●石田光廣・桐生幸之介・西天平 | 京町家も名作住宅も「まちづくり信託」で守る。住み継ぐ仕組みづくり急げ ●三原宏樹 | 文化財指定ではない歴史的景観資源を結び、地方都市のブランドつくれ ●木下壽子 | デベロッパーの手に渡った「新前川國男邸」を救うことができた理由とは？

税制だけを悪者にする前に、日本の都市計画のあり方を根本的に見直し、そのなかで歴史的な建物や緑地の保存に対する支援措置を十分に整えていく必要があるので、後藤治・工学院大学教授。日本の不動産業界では、土地と利回りが評価の主な対象で、建物の評価は耐用年数程度に過ぎない。たとえ、名建築、名住宅であっても、その文化的・芸術的価値は評価されないため、市場経済の論理で、いい建物でも、どんどん壊されてしまう(木下壽子「コミュニティハウジング代表」。



特集 | 歴史ある住宅を次世代に残す手段を探れ



地域の話題
京都会館
改修問題
市民の意思は届かないのか

相模湾沿岸地域一帯の邸園住宅分布図 (図説: 神奈川県)

1 高床式・草葺民家風の和風別棟
2 サンプルム
3 ロビー



論評
馬淵ビジョンの基本法制定を大島国交相は即実行示せ
— 神田順
オビエトンの視線
—
空間に豊かな表情を生み出す紙の世界 — 嘉戸浩

各地域に拠点を置く設計事務所の実作集
建築集

オープンハウス⑫ | 『吹上の家』 — 福井徹也

